

講義コード		科目区分	基礎教育科目
(フリガナ)	セイメイリンリ	(フリガナ)	タカハシ ノリオ
授業科目名	生命倫理	担当教員名	高橋 憲夫
英文授業科目名	Bioethics		
基準年次(開講期)	1年(後期)	履修形態	選択
曜日/時限/講義室	水2限/浅草		
授業の方法	講義	授業の方法 (詳細情報)	講義
単位	2	週時間	2
授業のキーワード	人間の尊厳と権利の尊重、個々の存在の固有の価値を認め合うこと。		
授業概要・目的	科学の発展は、社会および私たちの生活にさまざまな恩恵をもたらした。例えば、医学、医療技術の進歩は、病気の克服、延命などを可能にした。しかし、それは同時に生命の根幹に関わる問題を生じさせた。授業では、死の判定、脳死・臓器移植、安楽死・尊厳死、生殖医療、治療法選択の自己決定権、人工妊娠中絶、動物実験のあり方など、生命倫理をめぐる諸問題について所論を俯瞰し、生命の尊厳の本質について講義する。		
到達度評価の評価項目	生命倫理をめぐる問題について、一応の理解ができ、さらにそれぞれの問題について自己の見解が示せることを評価する。		
授業計画			
第1回	ガイダンス：生命倫理とは何か。その課題と方法		
第2回	生命倫理をめぐる諸問題		
第3回	脳死と臓器移植の実態と諸問題、臓器移植法		
第4回	リビングウィル、DNR、インフォームドコンセント		
第5回	代理出産、生殖医療の諸問題		
第6回	生と死に関する諸宗教の論理と倫理。自殺の問題		
第7回	クオリティオブライフ、人工妊娠中絶		
第8回	終末期医療と人間の尊厳		
第9回	クローン技術をめぐる諸問題、動物実験の倫理		
第10回	安楽死、尊厳死、死の補助と刑法		
第11回	遺伝子治療をめぐる諸問題		
第12回	医の倫理に関する国際規定、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言		
第13回	生命科学の将来展望と生命倫理のこれから		
第14回	生命とは何か。生命論の試み		
第15回	人間とは何か、人は如何に生きるべきか、人間論の試み。これまでの生命倫理の勉強を基に、改めて生命と人間の存在を問い直す。		
教科書・参考書等	教科書は指定しません。必要な文献は、授業中に適宜、紹介します。		
授業で使用する機器等	P.C. O.H.P.		
予習・復習へのアドバイス	復讐を重視。授業で知り得た知識を調べなおし、さらにそれを手掛かりにテーマを自分で考え、その考えを深めることウエイトを置くこと。		
履修上の注意・受講条件等	単なる単位取得を目的とする履修では、単位は取れません。生命倫理について深く考えたい人の履修を望みます。		
成績評価の基準等	期末テストの評価 80%、授業内小テスト 20%。		
メッセージ	生命倫理は多くの学問が関わる学際的な学問です。したがって、勉強量もそれだけ増します。ただ授業に出席しているだけでは単位の取得はできません。		
オフィスアワー	講義担当日の最初と最後の担当科目の前後一時間は、研究室に居ます。但し、5限は例外で、退室、帰宅します。		
その他			